

【報告】

ミシガン大学図書館訪問報告

柴田育子（学術情報課雑誌情報係）

一橋大学学術・図書部

1. はじめに

2012年4月にアメリカ合衆国ミシガン州ミシガン大学図書館（University of Michigan Library）¹を訪問した概要を報告する。筆者は、2011年11月に横浜で開催された第13回図書館総合展で、ミシガン大学図書館職員のニコルス奈津子氏²の講演を聴く機会を得た。「日米図書館フォーラム Part 1 学術情報流通の変容と図書館の新たな役割—米ミシガン大学にみる図書館の出版機能—」と題された講演では、ミシガン大学図書館にはMPublishing³という部署があり、以前から存在していたThe University of Michigan Press⁴とは別に出版事業を行っていることを知った。その講演を聞き、大学図書館が主体的に電子化事業を行っていることに興味を持ったことが今回の訪問に繋がっている。偶然にも江夏由樹一橋大学附属図書館長は大学院時代を同校で過ごされるなど関係が深く、ニコルス氏とも知り合いだったことも関連して、今回お二人のご尽力により図書館訪問が実現できた。訪問の概要は以下の通りである。

訪問日時：2012年4月30日（月）

訪問場所：ミシガン大学図書館

面会者：ニコルス奈津子氏、Publishing Services & Outreach Librarianの方、

Electronic Resources Officerの方

2. ミシガン大学図書館概要

ミシガン大学図書館（通称：MLibrary）は蔵書数850万冊、電子ジャーナル3万タイトル、利用者数は年間400万人に及ぶ大規模な総合図書館である。同館は幾つかの図書館に分かれているが、主に大学院生向けのHarlan Hatcher Graduate Libraryと学部生向けのShapiro Libraryが図書館の中核をなしている。

先述した図書館総合展でニコルス氏が発表を行ったように、ミシガン大学図書館は出版

事業において様々な取り組みをしている。元々ミシガン大学には The University of Michigan Press があるが、ミシガン大学図書館は電子と冊子の両方の出版機能を持つ MPublishing を立ち上げた。

3. Harlan Hatcher Graduate Library と Shapiro Library

2012年4月30日にミシガン大学図書館を訪問し、館内を見学、さらに MPublishing とミシガン大学図書館の雑誌契約に関わるスタッフの方と会う機会を設けていただいた。また、図書館は先に述べた Harlan Hatcher Graduate Library と Shapiro Library の2館を見学した。

Harlan Hatcher Graduate Library (写真1) は主に大学院生向けの図書館で研究目的に利用されるためだろうか、本学図書館の大閲覧室のような Reading room (写真2) があり、静謐な環境を作っている。また同じ建物内には Asia Library や地図資料だけを収めた Stephen S. Clark Library など、地域や資料形態に特化した図書館もある。



写真1 Harlan Hatcher Graduate Library の正面

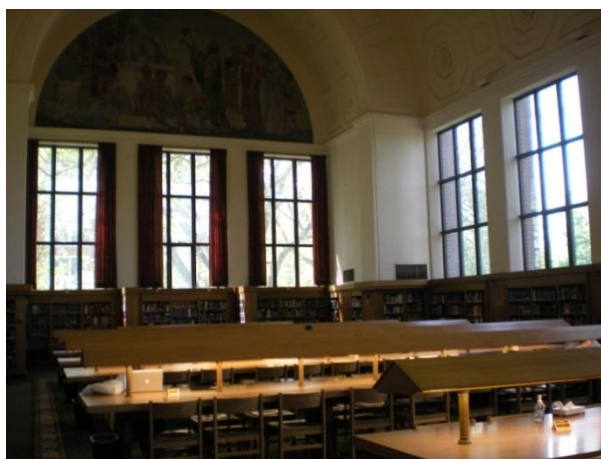


写真2 Harlan Hatcher Graduate Library の読書室

一方、Shapiro Library は学部生向けの図書館で、重厚そうな Harlan Hatcher Graduate Library と比べて明るい色合いの館内である。入館ゲート(写真3)の手前にカフェがあり、軽食をとるスペースがある(写真4)。また入館ゲートを通ると、目の前にはソファや大きなモニターなどがおかれ、学生がパソコンを接続させて、ちょっとしたディスカッションやグループワークをしやすいスペースが設けられていた。またこの図書館には、エスプレッソ・ブック・マシーン (Espresso Book Machine、EBM) が設置されている(写真5)。

エスプレッソ・ブック・マシーンとは、電子化されている資料をオンデマンド印刷し、カバーをつけて製本する機械であり、ミシガン大学図書館では2009年に導入し、2012年3月に新しく機械をリニューアルしたとのことである。実際に機械が動くところを見学させてもらったが、オンデマンド印刷は、電子書籍等1冊だけでなく、チャプター毎の印刷製本も可能だという。実演では、2つのタイトルの異なる電子ブックを1つの冊子として製本させていた。

担当者によると、学生には好評のようでそれなりに利用されているとのことだった。今後は大学外の地元の地域コミュニティにもこの機械が使われるように、何かしらの関わりを考えているようである。

4. MPublishing について

Mpublishing は2009年に発足し、出版と電子コンテンツ作成を行っている。The University of Michigan Press が書籍等を冊子体で出版しているのに対し、MPublishing は雑誌と書籍を



写真3 Shapiro Library
入館ゲートを抜けたところ



写真4 入館ゲート手前にあるカフェ



写真5 エスプレッソ・ブック・マシーン

電子、冊子の両媒体で出版しているのが特徴である。最近では The University of Michigan Press、MPublishing と共同で出版したり、Open Humanity Press⁵とも共同で専門書をオープンアクセスで出版したりしている。

既存の大学出版局とは別に MPublishing のような能を持つケースは、米国内の大規模大学が多いとのことである。以下、MPublishing 担当者との面会の際に聞き取ったことを述べる。

4.1. テキスト作成プロジェクト：The Text Creation Partnership (TCP)

TCP⁶は、これまで画像としてスキャンされていた手稿類を人の手でテキストを標準化 (XML、SGML 化) するプロジェクトである。歴史的資料の電子化、標準化を行うことで、研究を促進し、学術コミュニケーションを良くしようとしている。これまで、EEBO (Early English Books Online)⁷や ECCO (Eighteenth Century Collections Online)⁸などがこのプロジェクトによってテキスト化されたが、現在は EVANS (Evans Early American Imprints I: Evans)⁹に取り組んでおり、優先順位を決めて、2020 年までに資料の電子化を図るとしている。ミシガン大学図書館では、このプロジェクトの中心的役割を果たしており、現在このプロジェクトには約 150 の大学図書館が参加している。パートナーシップを結んでいない大学との違いは、TCP 参加大学でそれぞれ行われているテキスト化されたデータにアクセスが可能になることである。これまでベンダーが提供する EEBO や ECCO は全てテキスト化されている訳ではないので、この違いは大きいと思われる。

歴史的文書のテキスト化の動きに対して、図書館と企業がパートナーシップを結んで、電子化の促進に取り組むのは自然な成り行きに見えた。

4.2. 電子化資料の共同運営リポジトリ：HathiTrust

HathiTrust¹⁰は、著作権失効後の学術文献をデジタル化、テキスト化しているプロジェクトで、全米の 65 大学 (コンソーシアム単位では 3) が参加しており、現在収録数は 1,000 万冊以上に及ぶ巨大なプロジェクトである。このプロジェクトの特徴は、それぞれの大学が保有しているユニークな文献を参加大学が無料で見られることである。未参加大学のアクセスはメタデータのみ検索可能である。HathiTrust に関しては国内外の関心が高く、フランス等から問い合わせがあるということだった。

4.3. ミシガン大学の機関リポジトリ : Deep Blue

Deep Blue¹¹はミシガン大学の機関リポジトリの名称で、その機能は日本の大学の機関リポジトリと同じようである。

著者版¹²の文献をセルフアーカイブし文献を管理する機能や、博士論文が自動的にリポジトリに登録される仕組みがある。現在、絶版になった教科書等を Deep Blue に登録しようとするプロジェクトが立ち上がっている。

5. ミシガン大学図書館の電子資料の契約について

今回の訪問では、電子リソース契約業務担当の方と面会する機会を頂いた。アメリカでは、州単位や図書館の設置形態によって沢山のコンソーシアムが存在し、図書館はそのコンソーシアムの特性によって参加の可否を決めているようだった。

ミシガン大学図書館では、ミシガン州とインディアナ州の図書館による MCLS (Midwest Collaborative for Library Services)¹³や、全米 13 の大学で組織される CIC (The Committee on Institutional Cooperation)¹⁴など、3 つのコンソーシアムに加盟しているとのことである。参加している複数のコンソーシアムで同一の出版社と交渉がある場合、条件等を勘案し、一番良いと思われるコンソーシアムを通じて契約を行っているようだった。また、交渉時には利用統計を使って 1 ページあたりのコスト等を図書館側が事前に把握する必要があると話していた。また学内やコンソーシアム内での予算調整の難しさがあり、誰にとっても「平等な (“fair”)」コスト負担が難しい、と話していた。

6. おわりに

ミシガン大学は総合大学で、その図書館は学部生、大学院生用に建物が分かれていることから分かるように筆者の想像を超える大きなものであった。学部生図書館は、学習活動が自由に出来るよう工夫されているなど、建物も利用者の属性によって特徴が異なっていた。

また今回短い時間ではあるが、ミシガン大学図書館と電子化についてさまざまなプロジェクト、取り組みについて話を聞くことができた。大学ではなく図書館が出版事業を担い、企業とパートナーシップを結び、積極的にテキスト化、電子化に関わっている MPublishing の活動は、これまで筆者が持っていた図書館のイメージとはかけ離れているものだった。MPublishing は今後も図書館の中の組織として、出版機能をどう拡張させてゆくのか、既存

の大学出版社とどのように関わっていくが注目すべきところである。

加えて、アメリカは非常に多様で沢山のコンソーシアムが存在し、それぞれにいろいろな活動を行っていることが分かった。また大学図書館にとって複数のコンソーシアムに参加することは、当たり前のようにあった。これはコンソーシアム活動が利用や契約、購入に関することまで図書館の活動サービスを拡大できる利点もありつつ、アメリカ国としてのコンソーシアム契約は、コンソーシアムが多様すぎて合意形成は難しいということも感じることができた。ミシガン大学訪問はその一例を具体的に知ることが出来た良い訪問だったと思う。

図書館がビジネス感覚を併せ持ち、過去何十年、何百年とかけて収集してきた膨大な蔵書を最大限に活用することで図書館サービスの向上を図る動きはこれからの図書館の大きな流れになるのではないかと感じた。

[謝辞]

今回のミシガン大学図書館訪問に関して、沢山の方のご尽力をいただき、改めてお礼を述べさせていただきます。ありがとうございました。

¹ MLibrary. (online). <http://www.lib.umich.edu/>, (accessed 2013-01-29).

² ニコルス奈津子氏がミシガン大学図書館について書かれた著作は以下の通りである。
シェーナ・キンボル, ニコルス林奈津子. デジタル化時代の図書館の役割と使命 (第一回)
—電子出版を担うミシガン大学学術出版局の活動を中心として—. 丸善ライブラリーニュース. 2010年, 10号,
p.14-15.http://www.maruzen.co.jp/business/edu/lib_news/pdf/library_news161_14-15.pdf (参照 2013-1.30).

シェーナ・キンボル, ニコルス林奈津子. デジタル化時代の図書館の役割と使命 (第二回)
—教育・情報・出版基盤としての大学図書館とは何か—. 丸善ライブラリーニュース.
2010年, 11号, p. 14-15.
http://www.maruzen.co.jp/business/edu/lib_news/pdf/library_news162_14-15.pdf (参照 2013-1.30).

シェーナ・キンボル, ニコルス林奈津子. デジタル化時代の図書館の役割と使命 (第三回)
—より包括的なデジタルコレクションの構築を目指して—. 丸善ライブラリーニュース.
2010年, 12号, p.14-15.
http://www.maruzen.co.jp/business/edu/lib_news/pdf/library_news163_14-15.pdf (参照 2013-1.30).

³ MPublishing. (online). <http://www.publishing.umich.edu/>, (accessed 2013-01-29).

⁴ University of Michigan Press. (online). <http://www.press.umich.edu/>, (accessed 2013-01-29).

⁵ Open Humanities Press. (online). <http://openhumanitiespress.org/>, (accessed 2013-01-30).

⁶ The Text Creation Partnership. (online). <http://www.textcreationpartnership.org/>, (accessed

-
- 2013-01-29).
- ⁷ ProQuest 社が提供する 15 世紀から 17 世紀に英国ほかで刊行された資料をデジタル化した全文データベース。
 - ⁸ Cengage 社が提供する 1701 年から 1800 までに英語もしくは英国で刊行された印刷物を収録したデータベース。
 - ⁹ Readex 社が提供する 17 世紀から 18 世紀にアメリカで刊行された印刷物のデータベース。
 - ¹⁰ HathiTrust. (online). <http://www.hathitrust.org/>, (accessed 2013-01-29).
 - ¹¹ Deep Blue. (online). <http://deepblue.lib.umich.edu/>, (accessed 2013-01-29).
 - ¹² 研究者が学術雑誌に投稿した論文で、査読済みの出版社が編集・レイアウト処理をしていないものを指す。多くの出版社は、出版社版をリポジトリ等で公開することを認めないかわりに、著者版の公開を認めている。
 - ¹³ Midwest Collaborative for Library Services . (online). <http://www.mcls.org/cms/sitem.cfm>, (accessed 2013-01-29).
 - ¹⁴ The Committee on Institutional Cooperation. (online). <http://www.cic.net/Home.aspx>, (accessed 2013-01-29). ミシガン大学やイリノイ大学、シカゴ大学などで作るコンソーシアムである。

[Report]

Report of visiting University of Michigan Library

Shibata, Yasuko.

Serials Section, Library Affairs Division, Department of Libraries and Information,
Hitotsubashi University